

第5回

日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会会議録

令和3年（2021年）11月9日

日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会

第5回日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会

- 開催日時 令和3年（2021年）11月9日（火）
18時30分～21時00分
- 開催場所 日野市役所5階 506会議室
- 出席委員 梅澤秋久会長、箕輪潤子副会長、石田恒久委員、安田尚民委員、大神田信教委員、田中裕之委員、小宮広子委員、岩下優美子委員、坂田雅江委員、麻野綾委員
- 欠席委員 野田ますみ委員
- 事務局出席者 村田教育部長、谷川教育部参事、久保田学校課長、森谷学校課学務係長、西山学校課主任、佐藤学校課主事
- 傍聴者 なし

議事内容

【会長】

皆様こんばんは。定刻となりましたので、只今より最終回となる第5回目の日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会を始めさせていただきます。本日の検討委員会は、引き続き会長の梅澤が進行の任を努めて参ります。委員各位におかれましては、円滑な会の進行にご協力いただきますようお願いいたします。では検討委員会の開始にあたり、事務局より傍聴者含め説明があればお願いいたします。

【事務局】

事務局でございます。傍聴者はなしでございます。委員の出席についてでございます。本日の出席者は計11名。本会議は有効に成立しておりますことをご報告いたします。また、委員1名がオンラインによる参加となっております。以上でございます。

【会長】

ありがとうございました。それでは次第に基づきまして、本日も市立幼稚園の適正配置についての検討を進めて参りたいと思います。本日第5回目最終回につきましては、前回に引き続き答申案の検討と策定になります。前回第4回では、答申案につき、各委員会委員か

ら多様な意見をいただきました。また、その内容については、先日事務局より各委員宛にメールにて更新され、再度内容が更新されていることを確認しております。では、その更新された主な事項を事務局よりご説明いただき、答申を確定させていきたいというふうに思いますが、それでよろしいでしょうか。ありがとうございます。では、事務局より簡単に説明を頂いてよろしいでしょうか。

【事務局】

事務局でございます。本日最終回となると思っておりますけれども、よろしく申し上げます。先ほど、1名委員よりただいま連絡が取れまして、欠席ということになりました。改めまして、本日の出席には10名ということでよろしくお願いいたします。

それでは、事務局より配付資料に基づきまして説明をさせていただきます。資料につきましては答申案、第3回及び第4回の議事録の3点となります。本日はこの答申につきまして、前回からの主たる更新内容につきご説明させていただきます。

はじめに答申の作成経過についてです。この答申は第4回で委員各位よりご意見などいただきました内容を、あらためて箇条書きスタイルによる答申に一度修正を加え、委員各位に内容をご確認いただきました。さらに本日配布の答申につきましては、引き続き委員各位より再度ご指摘を受けた内容を踏まえ、事務局にて文言を整え、本日ご検討いただく内容として更新したものとなっております。

次に、文書全体の修正事項についてです。前回までの答申案は子どもや幼児といった類似する言葉があり、わかりづらいというご指摘がございました。したがって、文脈ごとにそれぞれ一貫性のある内容に改め、また同様に、「しりつ幼稚園」という言葉の混同を避けるため、「いちりつ幼稚園」につきましては「公立幼稚園」という言葉で統一的に表記しております。

続きまして個別の修正事項につき、ページごとにご説明します。1枚目、表紙タイトルです。こちらは諮問事項に合わせまして、表題下に「市立(公立)幼稚園の適正配置について」をあらたに表記しました。

続きまして、裏面、目次の最下段をご覧ください。先ほどご説明しました通り、「しりつ幼稚園」の混同を避けるため、ここに注釈を添えております。1ページ目以降につきましては、各委員よりこれまでご指摘のあった個所につき文言訂正を加え、さらに丸数字で表記しておりました箇条書きについて、文言の体裁を整えております。

少し進みまして、4ページ、(3)特別支援教育でございます。5行目をご覧ください。答申全般にわたり、エール(日野市発達・教育支援センター)との連携や機能について表記が続いております。従いましてこの5行目から3行程度、簡単ではございますが、エールの概略について述べさせていただき、以降、エールという表記で統一をさせていただきました。

続きまして6ページをご覧ください。中断カタカナ書きの項目提案箇所です。前回はア)からオ)までの5項目でしたが、第4回検討委員会でこちらに関するご発言がありましたの

で、4項目追記したものです。

7ページをご覧ください。上段、「なお」書きの3行についてです。今後の幼児教育や公立幼稚園のあり方については、この検討委員会で議論をし尽くすことは、時間的制約もあるため、別途会議体の構成につき、表記しております。

その下、6. 市立（公立）幼稚園の適正配置についてです。前回こちらについては表記がございませんでしたが、答申の方向性に関する発言がございましたので、これまでの委員のご発言に関連する事項をまとめた内容となっております。6の表題下から中段の（1）の上までが、検討委員会で検討されたテーマやその概略について、（1）から（4）については市立幼稚園の適正配置について、キーワードとなるご発言要旨について、（4）より下段につきましては、市立幼稚園の適正配置にかかる答申の具体であり、適正配置としての園数、園名とそれぞれの理由などを付記しております。

8ページをご覧ください。最終段落「したがって」から始まります文章についてです。前回の検討委員会で、「私立幼稚園の補完的役割」からの転換を趣旨とすることのご発言がありましたので、一文を入れております。

最後に9ページをご覧ください。付属資料についてです。今回は例示による表記としていましたが、これまで検討いただいた資料のうち、答申案に関連性の高い資料を抜粋の上、資料1から10まで整理いたしました。次ページ以降その該当資料を添付しております。

事務局からの説明は以上でございます。

【会長】

ありがとうございました。それでは各委員より答申案についてご意見ご質問を頂ければと思います。いかがでしょうか。ここで完成形を作りたいので、表紙から順を追って見ていきましょう。日野市立学校適正規模、適正配置等について、おめくりいただいて目次ですね。内容が変わってページが変われば数字が変わりますが、事務的な内容につきましては、事務局の方に一任させていただきたいと思います。では本文に入りましょう。1ページをご覧ください。「I. はじめに」いかがでしょうか。本当に細かいことなんですけど、2桁の数字は全角でいいですね、という事務局への質問でごめんなさい。

【事務局】

事務局です。こちらについては、特に制約はございませんので、半角もしくは全角でおっしゃっていただければ統一表現で手直しをさせていただきます。

【委員】

公文書での表記について、何かあったと思うんですけども、どちらかはちょっと記憶がないですね。

【委員】

日野市の表記便覧のルールがどうなっているかだと思うんですけども、都であると 2 桁は半角で、タイトルのローマ数字のあとには点はいれないなどのルールがあると思います。

【会長】

その辺りは、事務的な部分で揃えて頂くと、内容が大幅に変更されるわけではありませんので。内容のほうはいかがでしょう。事前にメール等でお配りいただきましたので、目を通していただいているかと思しますので、何かありましたら会の終わりまでにお伝えいただければと思います。

「Ⅱ. 答申事項」ということで、答申事項はこの内容になるかと思えます。「Ⅲ. 市立（公立）幼稚園の適正配置について」ということで、「1. 日野市における幼稚園設置の背景」。ここはいかがでしょう。1 ページになりますが、以前の資料そのままかと思えます。

【委員】

3 行目の「幼児施設は保育所の対応が優先し、幼稚園の設置は遅れ」というところの「優先し」なんですけども、公文章として、こういう文章表現をするのであれば、それでいいかなと思うんですが、一般的には「優先され」というふうにしたほうが、まとめやすいかなというふうに思いました。

【会長】

Ⅲの1の2行目の終わりから3行目にかけてですね。「公立としての幼児施設は保育所の対応が優先し」の部分。

【委員】

「対応が」の助詞が「を」になっていけば「優先し」でもいいと思うんですけども。

【会長】

「対応が」であれば「優先され」のほうが望ましいということですね、おっしゃるとおりですね。皆様いかがでしょうか、「優先し」の「し」を「され」に変えるということ。ではここを修正しましょう。

【委員】

2 行下の「公は保育所の一部を借り上げ」という書き方ですが、全体の文章の中で「公は」という表現がここしか出てきてないようなので、これは当然行政体そのものを言うと思うんですけども、そういう表現がされるものなのかどうかというところですよ。

【会長】

事務局いかがでしょうか。「公」という言葉は、一般的に使われることが多いのか。

【事務局】

事務局でございます。おそらくこれは「おおやけは」という読み方をしている想定ですが、日野市戦後教育史からの引用となっています。あくまで答申は一般市民も含めたわかりやすい内容がよろしいかと思しますので、もし分かりやすい表現があれば、そちらの方で表記していただいたほうがよろしいかと思します。

【会長】

はい、ありがとうございます。ということは「市」とかに変えたほうがよろしいでしょうか。「公」の一文字を「市」ということで変えると。当時は「市」ですか。当時は日野町がゆえに「公」を使っているのかもわからないですね。その下の段落、昭和40年代の話は「日野市」と書いてありますが、それは間違いないですね。

【委員】

すみません、そしたらば当時「市」でなくて「町」であったとするならば、「未認可幼稚園」のところの「市民」は「町民」になりますね。であれば、市（当時の日野町）にしておくと、「市民は」でも通るような気がします。

【事務局】

1行目の表現が、委員が言った通りの表現で一番良いかと思します。

【委員】

それであれば全部「市」で統一しても、最初に断ってあれば。

【会長】

そうですね。最初の行で、「日野市（当時の日野町）」と書いてあれば、その下は「市」「市民」でもよろしいでしょうか。このように言葉のところも気になったところをご意見いただけると美しい答申案になるかと思しますので。またお気づきの点があればまた戻っていたいただいてもかまいませんので。

2ページをご覧ください。「2. 子育てを取り巻く状況の変化」(1)(2)とありますが、いずれでも結構です。いかがでしょうか。

【委員】

よろしいでしょうか。3行目の「あり方はますます多様化し、児童を低年齢あるいは長時

間」となるのですが、児童では幼児か園児にした方がいいかと思います。

【会長】

どちらがよろしいですか。

【委員】

統一した方がいいと思います。

【委員】

預け先が特定されていないので、この文章の中にもたくさんでくる「子ども」がいいかと思いましたがいかがでしょうか。

【会長】

そうですね。園児に特定できないということで、「子どもを低年齢あるいは長時間預けられる」「低年齢から」でしょうか。「子どもを低年齢から、あるいは長時間預けられる環境が求められている」。

【副会長】

「子どもを低年齢から」というところとくつつくのは、最初の「共働き家庭の増加といった社会的要因」っていうところ、「社会的要因によって子どもを低年齢から、あるいは長時間預けられる環境が求められている」で、「また、発達や行動面に支援が」っていうふうにかかっていくのではないかと。支援の必要な子とか外国にルーツを持つお子さんとか課題を持つお子さんでも幼稚園に行きたいっていう家庭はたくさんありますし、そういうお子さんがみんな保育園っていう訳ではないので。

【会長】

では前半部分と「子どもを」のところをまず一文で繋げてしまって、「また」で「発達や行動面に支援が必要な子ども」というところで二文目にしたいと思います。「近年、女性の社会進出や長時間労働、共働き家庭の増加といった社会的要因により、子どもを低年齢から、あるいは長時間預けられる環境（保育志向の高まりなど）が求められている。」でよろしいですか。「また、発達や行動面に支援が必要な子ども、外国にルーツを持つ子ども、さらには様々な課題を抱える家庭など、就学前教育・保育のあり方はますます多様化している。」でよろしいですか。（２）でも結構です。

【委員】

（１）の９行目なんですけども、『子ども・子育て支援新制度』がスタートした。この制

度は～ことであるが」っていうことで、中身が書かれているんですが、「この制度は」っていうふうに主語がなっていると読みづらいので、「この制度の目的は～にすることであるが。」にするか、「その制度は」にして最後の「こと」の後に「を目的としたものであるが」っていうふうにするか。「制度」だけでは制度そのものを表しているので、「～する」ということ、目的を入れたほうがいいのかと思いました。

【会長】

ありがとうございます。では、「この制度の目的は」と最初に言ってしまった方が、括弧の中の意味が理解しやすいかと思いますので、先に入れましょうか。「この制度の目的は、『家庭の経済的な負担を減らし、すべての子どもが質の高い教育を受けられるようにすることであるが、この結果』ということですね。

【委員】

もうあと2点、(1)でお願いします。下から6行目の「現に」というところなんですけれども、『都内の公立幼稚園設置状況』を確認すると」ということで、上の文脈を強めるような言い方の内容になっているんですけれども、直接の関わりがないので、「現に」という接続はしなくてもいいのかなっていうふうに思ったということ。

「以上の点が、前回答申（平成30年3月）とは異なる視点（状況の変化）」と書いてあるが、今から4年前の時点で、多摩地域はもう数園しか無いような感じになっているので、状況が大きく異なっているというところは、それほど変わってない気がするんです。その上の部分についても、平成24年8月に入った新しい制度なので、平成30年の答申との違いというところで出すにはちょっと弱いかなと思います。

【会長】

ありがとうございます。まず「現に」という言葉をカットしてもいいんじゃないかということですね。「現に」はなくてもいいのではないかということではいかがでしょうか。ではカットするということ。「以上の点」もそうですね。おっしゃるとおり、平成24年の段階でも様々な施策をとられていますので、多摩地域の園数も変わらないのであれば、あえて書き加えなくてもいいのかなと。

【事務局】

補足させていただきます。委員がおっしゃったとおりで、「異なる点」というにはちょっと意図が伝わりにくい表現だったかなと思います。ただ、これまでの議論の中でまとめさせていただいた経過は、最初の4行目にございます通り、社会背景が当時よりも大きく変わったというご発言があったのが1点と、2段落目の「他方」から始まるその4行目にあたります、「子ども・子育て支援新制度がスタートした」というようなところが、前回の答申か

ら変わってきたということもございまして、「異なる点」という形で表現をさせて頂きました。で、ここに若干関わってくるのが、1 ページ目の上段にある「はじめに」というところですが、(1) から (3) の視点が今のところと少し重複する内容となっていますが、(3) の下に、状況の変化がかなり大きくなったということで触れておりましたので、前回の答申と異なる点ということで、表現に使わせていただいたところでもあります。

【会長】

事務的に質問させていただきたいんですが、「子ども子育て支援新制度」は何年の話ですか。それが平成 30 年 3 月以降であれば。

【事務局】

この議論で出たのが、幼児教育の無償化が始まって、公立幼稚園を取り巻く環境が大きく変わったという発言がありまして、言葉としては子ども子育て支援新制度の中に埋もれてしまっているんですけども、もしこの表現を残した状態であれば、委員がおっしゃるとおり、文末の書き方を改めまして、環境の変化を強調するのであれば、改めてここにその制度の内容の概略を少し付記させていただくか、その点でご検討いただければと思います。

【会長】

幼児教育無償化は何年の話ですか。

【事務局】

2019 年 10 月です。まだ最近ですね。実際に無償化されたのが最近の話で、3 法ができたのが平成 24 年なので、その辺をうまく書ければよいと思います。

【副会長】

ちょっと書き加えていただいた方がいいかもしれません。子育て支援新制度のスタート自体は、家庭の経済的な負担の話というよりは、すべての子どもが質の高い教育を受けられるようにするっていうところで、質と量の確保っていうところが元だったはずで、そのところをもう一度確認頂いて、無償化のところと少し書き分けていただけるとよろしいかと思えます。

【会長】

この第 2 段落の後半ですね、「子ども・子育て支援新制度」のところの確認と、そこに「無償化」が入ってくると、おそらく「この制度の目的は」ということで、先程の回答につながっていきやすいかと思えます。そうすると 1 番下の意義、今回の検討委員会が立ち上がったところとつながってくるかなと思えます。

文言については、一任いただくということでよろしいですか。「無償化」の文章を入れさせて頂いて、「経済的な」というところをつなぎやすくするというで。そうすると、最後の「以上」の文は残してよろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【会長】

幼児教育無償化の文章を追記して、流れを良くするということ。それが平成30年前回の答申と異なるということ。繋げたいと思います。

【委員】

(2) 2行目の「半数程度の8672人まで減少する事態となった」というのは、不自然だなど思いました。何か理由があって、そういうふうになってる感じがするので、事実としては「減少した」でいいと思います。

【会長】

おっしゃるとおりかと思えます。では「減少した」ということで。

【委員】

そうすると、その下の段の「令和3年8月現在の0歳児にいたっては」という「いたっては」というところも、かなり強調して書いているんですけど、その上の文脈の中に0歳児の人数が列挙しているわけではないので、唐突な感じがするので、これを抜いてしまっても意味は全然通るかなと。「0歳児は」とか「0歳児人口は」など。

【会長】

そうですね。「0歳児にいたっては」の「にいたって」を抜いていいということ。よろしいですか。

【委員】

はい。

【会長】

「3年8月現在の0歳児は」と「0歳児人口は」どちらがいいですか。

【委員】

その前が「現3歳児から」となっていて、「現3歳児人口」としてないので、「学齢児の人口は」というところを受けて、「現0歳児は」で。

【会長】

はい。そのほうが流れ的にはよろしいかと思います。では「にいたって」カットして「現0歳児は」ということにしましょう。

【委員】

4行目の「新型コロナウイルス」の「イ」ですが、これは小文字になっていますか。国の表記は大文字だと思いますので。

【委員】

大文字になっていると思います。

【副会長】

2段落目の、「園児数全体では平成29年度より1年度およそ50名ずつ人数が減少し、令和3年度に至っては3園で100名を下回っており」というところが、全員の園児数なのか、減少数なのかパッと見た時にちょっと分かりづらいと思ったので、まず令和3年度に至っては3名の園児数がとか、園児数の合計がとか、「全体で」というような、3園で100名が減少したということなのか、3園の園児数が100名を下回ったのかがはっきりすると良いと思います。

【会長】

これは後者ですね。

【事務局】

はい。

【会長】

3園の合計園児数が100名を下回ったということですね。

【副会長】

「平成29年度より1年度」というのは毎年っていう意味ですか。

【事務局】

毎年度ということですか。

【会長】

ではそのほうがわかりやすいですね。「園児数全体では平成 29 年度より毎年およそ 50 名ずつ人数が減少し、令和 3 年度に至っては 3 園で 100 名」。この文が長くなるので。

【副会長】

「減少している」で一回切るのはいかがでしょう。

【会長】

はい、それがよろしいかと思えます。この段落の 3 行目ですね、「毎年およそ 50 名ずつ人数が減少している。」人数が減少しているでいいですか。

【委員】

そこを園児数にしたらいかがですか。

【会長】

その上の直前に「園児数全体では」と出てくるので、同じ言葉を 2 回使いたくないかなと思います。「園児数全体」をカットして、「平成 29 年度より毎年およそ 50 名ずつ減少している。」にしましょうか。

【副会長】

「園児数は平成 29 年度より毎年度およそ 50 名ずつ減少している。」はどうでしょうか。「全体で」は入れなくても意味は通ると思うので。

【会長】

はい。「園児数は平成 29 年度より毎年度およそ 50 名ずつ減少している。」ですね。

【委員】

この文章の中に、年度がいっぱい出てきていることと、29 年から 2 年までの経年変化で確認しているにもかかわらず、最後では令和 3 年度の数字を出してくるので、そこはちょっと矛盾するので、思い切って「前回答申時点である平成 29 年度から」で、その後のその行を全部消してしまって、「毎年およそ 50 名ずつ園児数が減少している。」という風にしてしまって、「令和 3 年度に至っては」という風にしたほうがスッキリすると思います。

【会長】

今のご意見だと、「他方」からの 1 行目があり、2 行目に入る「平成 29 年度から毎年およ

そ 50 名ずつ園児数が減少している。」となるとスッキリしますね。「令和 3 年度に至っては 3 園の合計園児数が 100 名を下回っており、4 歳児年少クラスにおいては」ここは合計を入れますか。

【委員】

ここは 3 園の合計の新規入園児数ということでしょうか。

【会長】

そうですね。

【委員】

「下回って」「留まって」となっているのでわかりにくいような気がするので、「3 園の合計が 100 名を下回っており、4 歳児年少クラスの新規入園数は 34 名に留まっている。」とかはどうでしょうか。

【会長】

「令和 3 年度に至っては 3 園の合計園児数が 100 名を下回っており、4 歳児年少クラスの新規入園数は 34 名に留まっている。」でよろしいですか。

「この点においては、私立幼稚園の入園人数と仮定するならば、経営的観点から人件費や固定経費にかかる負担は大きく、運営継続困難な状況だとの意見があった。」とつながる。

3 ページ目の 3 行目の「共同性」ですが、副会長はどの字が良いと思いますか。

【副会長】

協力の「協」が良いと思います。

【会長】

そうですね。共同体であれば「共」で良いと思うんですけど、「協」にしましょう。

【副会長】

2 ページ目の (2) の 3 段落目の「ただし後述のとおり、公立幼稚園は特別な配慮を必要とする子どもへの支援を積極的に行っていることもあり」の部分ですが、特別な配慮が必要な子どもへの支援だけでなく、そのあとの役割も入ってくるので、まず一番大きなセンター的な役割を担ってきたというところが大きいと思うので、それを最初につけて「幼児教育のセンター的役割を担っていることや特別な配慮を必要とする子どもへの支援を積極的に行っていることなどもあり」というふうにしたほうが良いと思います。今の文章だと、特別な配慮の子どもの話だけの感じがしてしまうので、そこを加えていただきたいなと思います。

た。

【会長】

2 ページ目の下から 3 行目ですね。「公立幼稚園は」の後に「幼児教育のセンター的役割」が良いですか。ただ「センター的役割」にしますか。

【副会長】

「幼児教育のセンター的役割」ですね。

【会長】

「幼児教育」は入れといたほうがいいですね。いきなり「センター的役割」だと何のセンターなのかかわからないので。「幼児教育のセンター的役割を担っていることや特別な配慮を必要とする子どもへの支援を積極的に行っていることなどもあり」と「事実」を「ことなど」と言う形に変えてください。「簡単な経費比較はできないと考える。」と続くのでいかがでしょうか。

では 3 ページに進んでいただきまして、「3. 公立幼稚園が果たしてきた役割」ということでいかがでしょうか。

【委員】

4 行目のその前、「就学前の幼児教育において『センター的役割』を果たし、公立・私立の幼稚園、保育園といった設置主体の枠組みを超えて互恵関係を築き上げてきた。」でいいのではないのでしょうか。「中核的存在」と「センター的役割」がダブっていると思います。

【会長】

両方とも真ん中という意味ですからね。「中核的存在となっている。」はカットということでしょうか。

【委員】

上から 8 行目の「昭和 50 年代後半に」というところが、幼児教育センターが行った幼児教育の先駆研究成果は継承されているというようになっていて、ちょっと唐突感があって研究成果はなんなんだろうと問われるので、「幼児教育センターが行ってきた」というふうにすると、一つのことを指しているわけではないので、継続的にセンター的機能を果してきたという文脈になるかと思います。

【会長】

「昭和 50 年代後半に設置された幼児教育センターが行ってきた幼児教育の先駆的な研

究成果は」となるということですね。

(2) のことでも結構です。幼保小連携のところですか。

【委員】

5行目の「しかし」以降の2行ですが、かなり断定的な感じになっていて、市内の小学校を指しているのか一般論で言っているのか分からないんですが、「すべてないもの」とはどこの学校もしてないと思うんです。ただ、十分活かされてないということかというと、「幼稚園や保育園で学んできたことをあまり考慮せず」とか、「学んできたことを重視することなく」とか、ちょっと和らげる表現のほうがいいかなと思います。

【会長】

「考慮なく」「重視することなく」どちらのほうが良いでしょうか。

【委員】

その時期の現実には「すべて」でした。市内に限らずですけども。

【委員】

例えば「すべて」をとるとか。

【委員】

「スクラップアンドビルド」という本があったぐらいで、幼稚園や保育園で学んできたことをゼロからスタートにしようなんて本も売っていた時代だったんですけど。思いが分かるようにすればいいと思います。

【会長】

重視することなく。

【委員】

「すべて」という言葉をとるだけでもだいぶ印象が違うような気がします。

【委員】

管理職や教職員っていう風にターゲットを出さない言い方っていうのはできないんでしょうか。例えば「一日も早く指導することが大事であると考え」

【委員】

「考えていた」

【会長】

「小学校では考えていた」にしましょう。

【副会長】

全体の時系列的に、文科省から出ている時期と日野市が取り組んできた時期が、どういう時系列になっているかによって、読み方が変わってくると思いながら読んでいました。私が気になったのが、どちらかというと小一プロブレムの防止のために日野市が連携しているというふうに読めてしまうということです。最初は全国的に実際そうだったかもしれないんですけど、学びを接続していくというのは、学習指導要領も幼稚園教育要領も変わっていて、日野市は主体的対話的で深い学びというところを、今度の学習指導要領に入らなくていうことで作られた本なども、先駆的に出されて取り組もうとされてきたので、それを読ませていただくと、小一プロブレムの防止だけでなく、しっかりと学びを繋いでいこうという、そこがちゃんと書かれているというところは逆にに入れていただいた方が良かったと思います。そうすると最初の方は確かに小一プロブレムの防止から始まっていて、その時期はもしかすると先ほどお話しいただいたようなところが入ってくるかもしれないんですけど、後半の部分については接続というところに向けての活動であったり、そういったところで取り組んできたというふうな流れのほうが日野市は自然かなというふうに思いました。3段落目の「児童一人一人が自信をもって小学校生活をスタートさせることができるため、不適応を起す児童は少ないと考えられる。」とあるんですけど、スタートカリキュラムの実践で自信を持つのか、それとも幼稚園でいろんなことができるようになったりわかったり、自分たちが色々やって来たことが自信になって、それが小学校に行った時に、小学校の先生に受け止めていただけることによって小学校で学ぶことが楽しいというふうに、意欲というか小学校での学ぶというほうに子どもたちの姿が変わっていくという話なのか。その辺りが不適応を起す子どもが少ないという話だけでは少しネガティブかなという気がしました。

【会長】

どう変えましょうか。

【委員】

大きく組み替えてもよろしいでしょうか。4ページ目の「現在中央教育審議会」の部分を1番前に持ってきて、日野市は20年以上前から進めてきたというふうにすると、日野市はずっと頑張っているというふうに文がつながるかなと思いました。

【副会長】

そうすれば、さらに「多くの小学校では」の部分が少しぼやかされますね。日野市のこと

ではなくて、全国的な話になり、日野市の教育委員会が主催するとつながると、頑張ってきたというところが強調される感じがします。

【会長】

いかがでしょうか、4 ページ目の 2 行目からの 3 行の部分。

【委員】

この部分を、1 番最初の幼保小連携の最初に入れると、20 年前から取り組んでるということが最初に言えます。

【事務局】

どうでしょうか。ちなみに、先程の作り直そうといったところの、たたき台を作ってきたので、それを落ち着いたところで、みなさんに確認してもらえれば、それで解決できるかなと思います。ここも大きく手を入れるのであれば、イメージをお話しいただければ、一回作り変えて、またご確認頂きますけれども。

【会長】

ありがとうございます。

【委員】

この間私がお話しして、みなさんからいただいたことを自分で作ってお渡ししたんですけども、10 年前にいろいろ、幼保小連携はずっと前からやってきて、それも幼稚園が中心になって、幼稚園の実践を、小学校へ送ろうとしてきたにもかかわらず、小学校というのは本当にゼロからスタートというのがずっと続いてきたんですよ。未だにそう考えている小学校あるかもしれないんですけども、そこを幼稚園が中心になって、教育委員会がその間に入ってやってきたんですけども、全然繋がらなかったのが、逆に小一プロブレムが出てきた時に、小学校の方で自分たちの問題として考えて、幼稚園にという流れになって、幼児教育に目を向けなきゃいけないようになってきて、ここ 5、6 年で一気にスタートカリキュラムに乗って、今までやってきたことを財産にしながら、実践が進んできたのかなという思いなんですけど。歴史はもう本当に幼稚園がいろいろ発信するんだけど、小学校が全ての小学校じゃないんですけど、あまり受け入れてなかったのが現実で、そのところを、幼稚園はやってたんだ小学校ができていないけどということでも、流れの中でその財産があるから、小学校が今動き始めてここまで来たんだよっていうことを言いたいのが文章にならず、思いはそういうところなんです。教育委員会が繋いでくれて学校の子どもたちに目を向けた時に学校が動き始めた。もし幼稚園の積み重ねがなかったら、小学校のスタートカリキュラムはスタートできなかったと思います。

【副会長】

そうしましたら、3段落目の最初のところに、幼稚園と小学校の双方の連携があるっていう一文を入れ、幼稚園で体験したことや育ったことを伝えて、小学校側はスタートカリキュラムを実践することで、双方が一緒にしたことによって、児童一人一人が自信をもって小学校生活をスタートさせるというふうに、どちらか片方ではなくて双方という意味で、幼稚園側で幼児の育ちを小学校側に伝えるとともにスタートカリキュラムを小学校が実践することに、というふうにすると今委員が言ってくださったことが伝わりやすくなるかなと思います。

「幼稚園側が幼児期の経験や育ちについて小学校に伝えるとともに、小学校ではスタートカリキュラムを実践することにより」とか。

【会長】

では、この段落の前に「幼稚園側が幼児期の経験や育ちを小学校に伝え、小学校側はスタートカリキュラムを実践することにより、児童一人一人が自信をもって小学校生活をスタートさせることができている。」と。

【副会長】

「実践することにより、不適応を起こす児童が少なく、児童一人一人が自信をもって小学校生活をスタートさせることができると考えられる」というふうに、不適応が先に来ると多くの子ども達を小学校が温かく受け入れて、子どもたちも自信をもって小学校をスタートさせると読めるかなと思いました。

【会長】

ありがとうございます。最後の文末が、不適応を起こす量が少ないっていう形だと問題対応みたいになってしまいますよね。問題はもちろん少ないのだけども、こうやって児童がワクワクしながら小学校生活をスタートさせるんだらうなという方が良い気がしますね。事務局、その言葉の入れ替えをお願いできたらと思います。

【委員】

やはり最初にみなさんがおっしゃったように、時系列が行ったり来たりしてしまうんですね。なので、例えば「1番目の小学校では教室に帰れないから、スタートブックが配布された」が平成27年ですよね。そして、「現在、中央教育審議会…」がここに入って、「しかし、20年前当時は多くの小学校では…」っていう風になると改善している経過が見えるかなと思いました。

【委員】

時系列でいうと、平成 27 年にスタートカリキュラム、スタートブックが配布されたというのは一つ大きいですけど、その前にずっと小一プロブレムの流れはあったのですよね。そんなときに、他方ではスクラップアンドビルドもそうですし、幼児教育に目を向けなさいとかっていろいろな改善について提言があって、文科省も生活感について変更したり等という流れがありました。そしてそれをさらに後押しするように、具体的に平成 27 年にスタートブックが出されて生活科で取り上げ、いたるところでそのスタートカリキュラムについて実践し始めた、という。小一プロブレムはかなり前からあった流れの中で、20 年前ぐらいの幼保小も小一プロブレムを全く視野に入れなかったわけではないのだけれども、例えば、小学校の前倒しみたいな形で研究していたこともあるし、それが違うよねって幼稚園保育園の学びを小学校につなごうということで、有意ある段差としてつなげてきたというところがあります。すいません、1 人分かっているつもりで書いてしまったので、全然人を納得させられないんですけど、そのあたりを時系列で言うと、3 個同時ぐらいです。でもそれってというのは、今やっているかけはしプログラムと同じ内容だよっていう事を 1 番最初に持ってきて、日野市も小一プロブレムがある中で、幼稚園と、小学校、幼保小連携やってきて、そこに文科省がそれは当初要領にするようにして、今具体的な段階としては、良い方向といったらおかしいけれども、財産をもとにしてこれからもつないでいくようになってるよっていうふうな形なんですけれども。

【事務局】

今言っていたいただいた内容を今、事務局で修正していますので、それを元にもう一回見ていただいて、入れ替えたりはいかがでしょうか。

【会長】

では、いま修正がかかっているということで進んでいきたいと思います。4 ページ (3) 特別支援教育はいかがでしょうか。

【委員】

上の 4 行はよく読み取れませんでした。途中で「位置づけられたが」というように逆説が入ってきたりするので、分かりにくくなっているのかなと思いました。「子どもたち自らが育ていってほしい力を」という部分が主語になっているので。「…つくっていく力と位置づけた」というように一度文を切っていただいて。「この構想は、またはこの理念は、日野市の特別支援教育における「誰 1 人取りこぼされることなく、それぞれの子どもたちが明るい未来を歩んでいく」という理念と一致した日野市らしい教育活動と言える」とすれば良いのかなと。良質かどうかというのは決めるのは別の人で、自分でやって良質ですと言ってしまうのは違う感じがするので。大きく 2 つ分けるということと、第 3 次構想の考え方と

日野市の特別支援教室の理念が一致しているので、日野市らしい教育活動だという文脈が良いのかなと感じました。

【会長】

ありがとうございます。まず、「位置付けた」で切るということで。

【委員】

第三次基本構想の 1 番大事な所を書いてある文章なので、ここを引用されたと思うのですけれども、「子どもたち自らが育んでいってほしい力“を”」になっているんです。「…力“を”すべての命が喜び溢れる未来をつくっていく力とした」、くらいの方が。「つくっていく」は平仮名で、ここでは、つくっていく力としました、という文章になっているので、「…作っていく力」とした、の方がこの大元をいじっていないと思います。「位置付ける」は微妙な表現なので、「…力」とした、というように二行目は直したほうが。

【会長】

ありがとうございます。

では、つくるを平仮名にすること、「力」とした、という形ですね。

【委員】

理念、理念になってしまうのですが、この理念は、「日野市の特別支援教育における」、または「日野市の特別支援教育の」とする。そのあとに日野市の特別支援教育の理念がまた出てくるので。

【会長】

これは、誰 1 人のところ、「」で抜いてはいけないでしょうか。

【委員】

良いと思います。

【会長】

「この理念は、日野市の特別支援教育の「誰 1 人取りこぼされることなくそれぞれの子どもたちが明るい未来を歩んでいく」という理念と一致した、日野市らしい教育活動といえる。」こちらでいかがでしょうか。

【委員】

すいません、真ん中のあたり「公立幼稚園が幼児期から様々な特性の子どもがいて当たり

前で」っていう部分です。口ではそのように言ったと思いますが、当たり前というのは少しひっかかってしまったんです。“当たり前”を取っても文章的には通じるかなという。最終的には、お互いがお互いを認め合っている、調和したっていう環境に繋がるので。

【会長】

おそらく、このさまざまな特性の子どもと、その直後の特別な配慮が必要な子どもは一緒だと思うので。ひとつにまとめてしまってもいいのかもしれませんが。「様々な特性の子ども」のあとの“が”から、子どもと共に過ごす、までをカットしてしまうと。

また、「多様性を認め合うという環境」でもいいかもしれませんね。東京オリンピックでも多様性と調和のような言葉が出ていたかと。「これは、公立幼稚園が幼児期からさまざまな特性の子どもと共に過ごす子ども達にとっても多様性を認め合うという環境を創出している結果の表れであろう」とか。

【委員】

個人的に、特性のあるお子さんとそうでないお子さんを分けて、そうでないお子さんにとって、という言い方に読めてしまって。それよりも、公立幼稚園が幼児期からさまざまな特性の子どもを受け入れて、その中でどの子も多様性を認めあうっていう教育をしているから、小学校でシームレスっていう前の文章にかかっていく方が自然かなという気はします。少し一方通行かな、という。特性のある子がその他の子のためにいる、みたいな表現になってしまって、その逆も然りで。そうではなくて、どの子もお互い認め合っているというところを幼稚園では大切にされてきているのだと思うので、子どもを特性の有無で分けるのではなく、さまざまな特性の子どもがいて当たり前でという文脈で、「いて当たり前」から、「の過ごす子ども達にとっても」というところを消してしまってもいいかなと思います。

「幼児からさまざまな特性の子どもが共に過ごし、多様性を認め合う環境を創出している結果の現れであろう」という形。

【委員】

創出している、でいったん切ると良いでしょうか。「また、公立幼稚園では」、の文も読み方によっては、「特別な配慮が必要な子どもと同じ学級でともに学び」ってところで「誰が」という点が書かれてないので、配慮が必要でない子どもが中心に据えられているという印象が強いですね。ここも先ほどのように、さまざまな特性の子どもが居るという形で。さまざまな特性の子どもというのは、特別な配慮がいる子もそうでない子も全部包括してる、という風にみたほうが良いと思います。

【委員】

その代わり、小さな集団を経験してから、の前に「特別な配慮が必要な子どもは、小さな

集団を」という風に、その子達に必要な配慮ってところの手法をハッキリさせると良いのかなと思います。

【会長】

では、「また、公立幼稚園では、様々な特性の子どもが同じ学級でともに学び、小学校に入学してからも空間の隔たりや障壁を感じることなくシームレスに接する機会が教育委員会の中でも実例として挙げられている。これは公立幼稚園で、幼児期から様々な特性の子どもがともに過ごし多様性を認め合うという環境を創出している結果の現れである。特別な配慮が必要な子どもは、エールで小さな集団を経験してから幼稚園に入園後、加配教諭の配慮を受けて大きな集団を経験することができる。」といった形でいかがでしょうか。

【委員】

児童発達支援事業が色々あるので、エール等の方が良いかもしれないです。

【委員】

加配で支援員の先生が付く場合でも、エールに通ってないお子さんもいます。必ずしもエールに通っているお子さんに加配が付くのではなくて、保護者の方の気持ちがエールに向かない場合でも支援員が付く場合が現にあります。すべてがエールで小さな集団を経験しているわけではないです。

【委員】

「小さな・大きな集団」を入れなくても良いと思います。特別に支援の配慮の必要な子どもは幼稚園で加配教員の配慮を受けるとともに集団を経験することができ、小学校に入る前の子どもにとってあらゆる可能性にチャレンジしやすい環境が整っていると考えられる。また、公立幼稚園がエールと連携しているという点をもし入れるのであれば、1番最後に入れるのも1つですけど、おそらく私立幼稚園も連携されていると思うので、入れなくてもいいかなと思います。

【会長】

その上の段落でエールの説明が詳細に行われており、ここで隣接する第七幼稚園との交流のことが既に書いてありますね。

【委員】

2段落目は第七幼稚園とエール話なので、一旦ここでエールの話は完結させてもいいのかもしれないですね。

【会長】

では、「小さな集団を経験してから」をカットしましょうか。「特別な配慮が必要な子どもは幼稚園に入園後」となり、先ほど入れようとしたエールの部分もカットということで。「大きな」もいらないでしょうかね。「加配教員の配慮を受けて集団での学びを経験することができる」と。

【委員】

第七幼稚園のことなのですが、1番最後の「共生社会の実現に向けた取り組みとなっている」という点が、何からなっているのか探したのですが見つからないので、「隣接する第七幼稚園は、エールと日常的に交流しており、子ども同士が」と続く形で、「この取り組みを実践している」というようにしたほうが良いかもしれません。また、インクルーシブと書いている点について、文科省から出ている定義を含めて、「子ども同士がお互いの存在の意義を高めあい、対話的で多様な学びの機会」というものがインクルーシブ、というようにここで定義して良いのかどうか気になります。

【会長】

このカッコ書きはいらないかもしれないですね。学びの機会を創出し、共生社会の実現に向けた取り組みを実践している、と。続けて4ページ(4)、また5ページ(5)、6ページについてはいかがでしょうか。

【委員】

(5)のところですが、7行目の幼稚園教育要領に基づきながらもより特色ある、となっているので、「も」のあとに読点をうったほうがいいですね。

【会長】

おっしゃる通りですね。読点の位置を移動する、と。

【委員】

その4行下のあたりに続く、「公立幼稚園では先の特別支援教育の項番でも」とありますが、この項番は項の番号のことをいっているのか、それとも特別支援教育の(3)全体の内容をいっているのか分かりづらいです。項について述べているとすれば、(3)特別支援教育でもその特徴には触れているが、にしたほうがわかりやすいかもしれません。

【会長】

なるほど。そうすると、3(3)特別支援教育では、とするのが良いでしょうね。

【委員】

今おっしゃった部分の後ろに「加配教員の積極的な配置」とあるのですが、公立幼稚園では特別支援教育支援員となっており、加配教員という言い方はしていないので、そこが一点です。また、もちろん消極的ではないので、積極的にしていただいているところかと思いますが、子どもの特性や様子に合わせて1対1または1対2の対応ケースもあるので、積極的というよりは、適切なといった言い回しのほうが良いと思うのですが、いかがでしょうか。

【会長】

そうですね。加配教員は前のページにも出ているので、正式名称の特別支援教育支援員に修正しましょう。

そして、5ページ中断右側、「積極的な配置」は「適切な配置」にしましょう。

5ページ下の経営的観点は、比較的に市のことなので、このままとして、もし修正がある場合にはおっしゃってください。それでは、6ページ5からいかがでしょうか。

【委員】

4行目の「さらに量としての補完的役割から転換」の後にとじ括弧ではなく、「量としての補完的役割」に括弧をつけて、また「良質な幼児教育の推進」に括弧をつけたほうが。

【会長】

ありがとうございます。書き換えのところですね。

【委員】

キ) なんですが、一案を提案したいのだからア) ~ケ) けてことですよね。方向性やその具体を示し、ということなので。そうするとこのキ) っていうのは、今まで継続的にしている内容ではないかと思うので、今初めてとりかかるわけではないので、継続推進のほうが良いのではないのでしょうか。

【会長】

そうですね。今、一年生は幼稚園へいっていますか。

【委員】

幼稚園の先生は少ないので、学級の子どものサポートまではまだ全然時間的にも余裕がないというような形です。

【委員】

そうすると、キ)の子どもの教育活動を学級でという部分は、小学校で、といった形にするのはいかがですか。

【会長】

そうですね。それでは、7ページにまいりましょう。

【委員】

2行目ですけれども、日野らしいという部分について、他のところは市が入っているので、日野市らしい、とした方が良いと思います。

【会長】

ほかに一か所「日野らしい」という部分がありましたよね。事務局のほうで「日野らしい」と検索していただき、なければ私の勘違いです。

【事務局】

4ページ(3)特別支援教育の4行目に「日野市らしい良質な教育活動」という部分があり、このほかにも日野市らしいということは使われているところがございます。

【会長】

承知しました。

【委員】

そうですね、そもそも5のタイトルで日野市らしいって書いているので。

【会長】

それでは、日野市にしましょう。

【委員】

5の先ほどのタイトルで、最後の文章の順番はこれでいいでしょうか。

【会長】

そうですね、逆になってしまっていますね。タイトルはこのままで良いでしょうか。まずは幼児教育、その中で公立幼稚園があるということで。

【委員】

ページめくっていただいて8ページの1行目なのですが、ほかの公立幼稚園と統合する

ことが望ましいと書かれています。これは、子どもたちは統合されませんよね。地理的にも離れているから、転園して通うというのも現実的ではないと思うので。

【会長】

実際は、決まって以降、新2年次を受け入れないという形になるんですよね？

【事務局】

そうですね。

【会長】

そうすると統合という言葉は、前回の答申ではどのように使っていますか。廃止等の直接的な言い方でしょうか。統合という言葉はありますか。

【委員】

統廃合ですかね。

【会長】

なるほど。廃止ではないですよね。

【事務局】

事務局です。前回の平成30年3月の答申の中に書かれている文言を少し読み上げますと、適正配置を進める市立幼稚園という表題の中で、末文に「第五幼稚園は適正配置の対象とせざるを得ない状況にあり、統合することが望ましいと考える」という結びで書かれております。

【会長】

なるほど。統合ということですね。どちらがよろしいでしょうか。

【委員】

この統合という言葉だけを見ると、運営スタッフとしては統合ですね。ですけど、子ども達にとっては統合ではないなって言う印象を受けたので、誰側の統合なのかな、と思ったんです。

【委員】

はい。そうですね。なんか統合というのは、機能的であったり、中に居るスタッフがそちらに移ることも含めて部分もあると思うんですけど、市民の目から見ると、統合って言われ

でも場所も違うしどうだろうという部分もあると思います。でも廃園と言ってしまうと、本当に悲しい感じなので閉園というのはどうでしょう。

【委員】

統合を閉園は並列しないのでありだと思っておりますけど、統合でも良いかな。

【委員】

三幼の隣の1小としては、今もあそこに三幼があつて、三幼はなくなったけど、四幼に統合されたんだという思いがあつて、三幼はなくなって無いぞっていう思いがあるんですね。思いはみんな違うので、言葉ってすごく難しいと思うのですが、いつまでも三幼がある気持ちっていうのは、式典なども統廃合という形だったので。廃園や閉園じゃないぞという感じはあります。

【会長】

それでは、統合で。

【委員】

6の(3)と(4)ですが、(3)の老朽化が著しく進む一部園舎があるが、という風を書いて逆説になつてるんですけども、1番最初に一部を持ってきて、一部に老朽化が著しく進む園舎があり、今後幼児教育にふさわしい環境整備が必要である、のほうのスッキリするかなということ。(4)の、共同性という言葉がでてきているので、ここの漢字は直したほうが良いかと。

【会長】

ありがとうございます。では、そのように。この6がいわゆるまとめのところになりますので、もう一度ご確認をいただきまして。

【委員】

(4)のあとの段落の、公立幼稚園は特別な配慮を必要とする子どもへの支援にとってかけがえのない存在であること等を、というところを、さっきの話と一緒に、幼児教育のセンター的な役割を果たす存在であることや、またその後に合わせると存在であることっていうほうが良いでしょうか。幼児教育のセンター的な役割を果たしているということを先に入れていただいて、特別な配慮が必要なのというように、先ほどと同じ順番にさせていただくとありがたいです。文章はおまかせします。

【会長】

文が長くなるので1度切ってしまいませんか。「こうした経過に基づき、今後の公立幼稚園の運営にあたっては中長期的視点たち、選択と集中を進めていくべきである。」と。

【委員】

公立幼稚園は、幼児教育のセンター的役割や役割を担う存在であることや、特別な配慮を必要とする子どもの支援にとってかけがえのない存在である、と。存在が2回くると少しくどいかもしいないので、そのあたりがきれいに収めていただけると。担っていることや、でもいいかもしれませんね。

【会長】

そうですね。担っていることや、にすると良いですね。

【委員】

最後の段落ですけれども、「したがってこれまで私立幼稚園の補完的役割として時代の状況変化に合わせて繰り返されてきたが、今後はそこから」というところを、もっと具体的に書いた方が良いかなと思いました。量的補完的役割からの転換を図り、など。

【会長】

はい。具体的にしたほうがよろしいかと思えます。量的な補完的役割からの転換を図り、と。

【委員】

下から4行目のところの「求められる姿などを改めて」のところは、求められる姿など“が”を入れた方が。最後のところの、したがってこれまで、というのだったら、これまではされてきたが、今後はっていうところで「は」を二つ入れることですっきりすると思えます。

【会長】

ありがとうございます。これまでは、今後は、ということで。量的な補完的役割からの転換を図り、どんな役割、というかたちで役割入れてしまったほうが新しい機能が明文化されて良いかなと思うのですが。良質な保育の推進的役割とか。

【委員】

日野市らしい幼児教育の具現化とか。

【会長】

したがってこれまでは、私立幼稚園の補完的役割として時代の状況変化に応じて公立幼稚園の適正配置が繰り返されてきたが、今後は量的な補完的役割からの転換を図り、日野市

らしい幼児教育の具現化に向けた鍵、良質な教育保育の推進的役割を果たせる、といった形ででしょうか。

【委員】

良質な教育保育の推進役として、公立幼稚園が強化を図れる、とか。要するに公立幼稚園が良質な教育保育を推進していく旗振り役みたいなイメージですか？

【会長】

そうですね。この保管的役割という言葉ですね、かなり頻繁に出てきた言葉だと思いますので、おそらく今後は、良質な教育保育推進者としても、公立幼稚園の役割っていうものをしていくことが結構重要かなと個人的には思うのですけれども。

【委員】

ここの中身に入ることは、この項目の 5 にカタカナで書かれているような具体的内容が本来期待されるころではあるのかなと思うので、良質な教育保育の推進役として、時代や市民のニーズに応じた柔軟な日野市らしい、みたいな感じにすると。量でなくて質を高めるための位置づけということが。既成の概念に取られることなくというのが 5 の中でできていますので。

【会長】

具体についてはまた別途、他の会議体でということが書かれていますので、役割だけなんとかここで書ければ。結局、何に対する適正なのかというような話に毎回なってしまうと思うんですね。そうすると必ず量に対する適正だったのかどうか、という話が繰り返されかねないので。そうでなく、今後は質的な、いわゆる良質な教育保育の推進として、どのように適正であったかというような考え方でもっていったほうが良いと個人的には思います。では、機能を我々が決めていいのかということもありますので、こんな形でどうでしょうか。「今後は量的な補完的役割からの転換を図り、日野市らしい幼児教育の具現化に向けた「良質な教育保育の推進的役割」を公立幼稚園が果たせるよう最後の言葉、意見を申し添えておく。」いかがでしょうか。

【委員】

ありがとうございます。お願いします。

【会長】

よろしいでしょうか。では、全体を通じて何かありますか。

【事務局】

大きく修正する箇所が計3か所ありますので、まず最初の2つをお配りします。こちらを見ながらお願いいたします。2枚お配りしております。まずは1つが下部に2ページと書いてあるものです。子ども子育て支援制度を時系列に記載し、そこで大きく変わったという点分かるようにしております。

【会長】

無償化のところ、令和元年10月ですね。教育委員会答申との間に幼児教育、保育無償化が始まったということが明文化されて、より一層3歳児から利用できる私立幼稚園のほうに、というような言葉が入っております。

【副会長】

内容は時系列的にもわかりやすくなったと思うのですが、もしかすると1文ごとに段落を変えていただいている点で、「他方から次のその後」というところは、前の段落にくっ付けてしまっても良いかと。「この制度の目的は」という3段落目になっているところも、「スタートした」の後にそのまま続けてまとめてしまってもいいかなと思いました。

【事務局】

読みやすいかなということで文を分けさせていただきました。段落ごとに分けた方が1文ずつで読みやすそうな印象だったので、後ほどまとめていただければ整理いたします。

【会長】

いかがでしょう。特になければ、このように差し替えということで。

【委員】

すいません、この多くの小学校では、幼稚園保育園で学んできたことを踏まえた、小学校教育の大切さについて、という部分が先ほどとはニュアンスが変わっているような気がするんですけども。小学校教育の大切さということが強調される文章になっています。

【事務局】

幼児教育ですね。申し訳ありません。幼児教育の大切さについてですね。

【委員】

また、この制度の目的のところの、とじ括弧がないです。

【事務局】

はい、とじ括弧ですね。3 ページのところですが、丁度真ん中あたり。「しかし、多くの小学校では」というところですね。「幼稚園、保育園で学んできたことを踏まえた。幼児教育の大切さ」というところですね。

【副会長】

幼児教育の大切さについて考慮するというよりも、児童が幼稚園保育園にいた時に学んできたことを踏まえた、や、考慮したというほうがいいのかなど。もしくは、幼稚園保育園で学んできたことを考慮することが乏しく、かなと。

【事務局】

幼稚園での学びや経験してきたことの大切さについてということでしょうか。

【副会長】

そうですね。幼児教育を考慮するだったら分かるのですが、子ども達が学んできたことを考慮するということであって、幼児教育の大切さを考慮するわけではないという。

【会長】

しかし、多くの小学校では子どもたちが幼稚園保育園で学んできたことを考慮することが乏しく、小学校生活では一日でも早くその小学校の生活のルールを一日も早く指導することが大切であるという。

【委員】

ここは考えていた、が良いと思います。

【会長】

いまの箇所を直して、しかしの段落を直す以外に気になる箇所はありますか？

【委員】

真ん中あたりで日野市公立幼稚園においてはこの 1 番最後に入れていただいていた文章を、ここに入れるよりは 1 番前に持ってきて、日野市が実践してきたというようなほうが全体的な意味が通るかなと思います。スタートブック配布したし、実践してきたけどその小学校の生活のルールを一日も早く指導することが大切であるという管理職や教職員が少なくなかっていった、という文だと一度文脈がと崩れちゃう感じがして。もしかすると実際は先ほど他の委員さんがお話されたように、いろいろ取り組んできたけど難しい部分とかや進みづらいこともあったかもしれないですけど、やはり積み重ねがあって、今の日野市だと思うので。なので、この部分、1 番最初でいいかなって思います。

【会長】

いかがでしょう。この3行は1番上で。では、日野市公立幼稚園の文を一番前に。そして、しかしの段落がいくつか修正がありましたのでご確認ください。では、改めてもう1枚配られましたね。4ページの特別支援教育の部分ですね。先ほどのご指摘のとおり修正されていると思われと思いますがいかがでしょうか。

【委員】

上から4行目の日野市の良質なというところが。

【会長】

では、その点の修正ということで。全体として、委員の皆さんからありますでしょうか。

【委員】

(3)の最初の4行なんですけれども、日野市の特別支援教育の「誰一人とり溢されることなく、それぞれの子どもたちが軽い未来を歩んでいくという理念」が、第三次基本構想の理念と一致して、日野市らしい教育活動と言えるっていう部分で、上位は第3次基本構想ですよ。この順番で行くと、第3次基本構想が日野市の特別支援教育の下にあるような取り方ができてしまう気がします。順番の上位は第三次基本構想かなというところなので。

【事務局】

この理念はの次ですけど、これまで実施してきたとか、これまで進めてきた日野市の特別支援教育の、というふうにしてしまえば。表しているといった方がいいでしょうか。教育活動というのはちょっと変ですが。

【会長】

活動ではない感じがしますね。

【事務局】

活動を取り、目指している、実現しているという表現。この理念は、これまで日野市が進めてきた特別支援教育の「誰一人とり溢されることなく、それぞれの子どもたちが軽い未来を歩んでいくという理念」と一致している、という形でしょうか。ただ、どちらも日野市で決めていることなので、自分で決めたことに対して自分で一致しているというのは、違和感を感じてしまいます。そうすると、この部分は改めて事務局で整理いたします。

【会長】

今わたくしも考えました。並列は「また」でつなぐ。「未来を創っていく力とした。また、日野市の特別支援教育では、未来を歩んでいくという理念を掲げており、特別支援教育の推進が日野市らしさだといえる。」という形で、特別支援教育のセンテンスだということを表現してみました。いかがでしょうか。そのほかありますでしょうか。

それでは、もしお気づきの点がありましたら、事務局にお申し出いただきました、微修正いただければと思います。

これで最終回なので、ひとりひとり簡単に結構ですので、会に参加されたそのご意見ご感想をいただければと思います。

【委員】

今回こういう会に参加させていただいて、保護者としてわが子 3 人とも公立に通えたことは本当に有難いと思っていますし、公立幼稚園に入れたっていうお母さんが少なからずいるっていう。人数はもしかしたら少ないのかもしれないですけど、そういうお母さんがまだまだいらっしゃるっていうことを、これから公立幼稚園が継続していく上で、1 人でもそういうお母さんがいるということを知っていただきたいと思いました。以上です。

【会長】

ありがとうございます。

【委員】

このような会に参加させていただき、ありがとうございます。この前の会議で第 4 幼稚園が統合される方針が出て、今後もまた違う機会で話し合う内容になるのかもしれませんが、そのエリアのお子さんが幼稚園に行きたいって言った場合や、あとそのエリアに一定数いる特別な配慮を要するお子さん達を今後どう受け皿を保障していくかということが大切だなと感じました。以上です。

【会長】

ありがとうございます。それでは次の方お願いいたします。

【委員】

はい。私の子どもはもう高校生と中学生で大きくなってしまっているんですけども、こうした会議に出るたびに新しい学びがあってですね、日々勉強だなと思っています。良い会議に出席させて頂きました。ありがとうございます。

【会長】

ありがとうございます。

【委員】

この5回の会議で、幼児教育のあり方はとても重要だなというのを再認識しましたし、小学校で子どもたちを育てていくということについてさらに責任あるなということを感じました。本当にこの会議に参加して、いろいろなことを学ぶことができたので、ありがたく思っています。ありがとうございます。

【会長】

ありがとうございました。

【委員】

ありがとうございました。たくさん発言したのが文章のところばかりだったので、勉強不足だなと改めて感じたのですが、公立幼稚園の存在意義を改めて価値付けたことができたので、実際に今後存続しているために大事なものは、今ここで考えたようなことを小学校も環境も全部一体となって支えたり、実践できるかどうかかなんだろうなという風には思いました。今センター的機能だったり、いろんな新しい取り組みというのも積極的に仕掛けていくことが生き残っていくためにも大事ななあというふうに思います。これからも勉強を深めていきたいなと思います。

【会長】

ありがとうございました。

【委員】

本当に熱い思いがあって言葉にするんですが、なかなか文章にできずご迷惑おかけした部分、また言葉にできずご迷惑おかけしたことがあったと思うんですけども。今それぞれ私立幼稚園、公立幼稚園、私立保育園、公立保育園の役割も明確になり、小学校のやるべきことも明確になった中で、幼児教育の質を上げ、小学校の方でしっかり繋いでいきたいという思いを新たにしたいスタートかな、というふうに思っています。今後ともぜひそれぞれの立場で連携していければと思います。

【会長】

ありがとうございます・

【委員】

皆様ほんとうにありがとうございました。これだけ公立幼稚園のことを理解していただけたことが、本当に感謝の気持ちで、13名という少ない職員数ですけども、代表してお

礼を申し上げたいと思います。この年の中では、一減園というところで非常に残念なんですけれども、また新しい役割というものを皆様の色々な助言をいただきながら、自分たちでも一生懸命考えながら、日野市全体の子ども達、小学校のことを考えて。また前に進んでいけるように微力ですけれども、一員として頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

【会長】

ありがとうございます。

【委員】

この適正配置委員会に出席させていただいて提供されたさまざまな資料や、いろんな立場の委員の皆さんの話を伺って、とても勉強になりました。やはり今思うことはあのやっぱり日頃の子ども達の為に就学の建学の精神を活かして、さらに頑張っていかなければいけないなということをととても強く感じています。特別支援教育や幼保小の連携、この辺もまた持ち帰って代表者会議に発言をさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

【会長】

ありがとうございました。

【副会長】

皆様、本当にありがとうございました。日野市この会議に出させていただいて、改めて公立幼稚園がその市部で残っていくということ。一園は統合と言う方針になりますけれども、残っていくっていう、区部では残っているけれど市では、っていうところで。やはりそこがちゃんと残ったということの意義を、これからしっかりと形になるようにということをお願いしてやまないということ。それと同時に、今他の委員がご発言されましたけれども、やはり公立だけ良くてダメで、私立幼稚園、公立保育園、私立保育園、こども園。日野市の子どもたちみんなが幸せに生きていくっていう第3次基本構想に基づいた0歳から18歳までということだと思っております。そこで一貫して子ども達が良い教育を受けて育っていくということをみんなで目指していくところのスタートの会議になればいいのかなというふうに感じました。私は小学校の先生方が、幼児教育の重要性についてすごく語ってくださったことがとても嬉しかったですし、保護者の方の幼稚園に通わせる思い、お母様としての思い、また私立の幼稚園に通われてというところでいろいろ感じられたことなど、皆さんの話を伺えたことが私にとっても本当に勉強になりましたし、さまざまな方が日野市の子ども達の事を想っているところが今後の希望になるといいなという風に思いました。本当にありがとうございました。

【会長】

私は、すべての園お邪魔をしています。本当に世界に誇れる優秀な幼稚園教諭の集まりなので、自信を持って言えます。先週ですね。先週の金曜日。幼小連携で1学期に行った事業2学期まである。ところが小学校の先生がおめでたいことにご懐妊されたんです。体育指導できないとなった時に、ティーワンは、幼稚園の先生です。日野はそういうことができます。幼稚園の先生が小学生と幼稚園児一緒に指導して、そこでリードできる。そういう良質な教育はもうすでに推進されている。だから、それをより一層広げるという意味でも、新しい機能強化として、ますますこの日野は、公立幼稚園の先生方に頑張っていたきたいという思いでこの回を締めたいなと思っているところであります。

少しだけ事務的なお話をさせていただきます。本来、我々は諮問を受けたので、答申を教育長にお渡ししなければいけないところなのですが、現在不在と言うことで聞いてございます。したがって、答申につきましては、会長である私が会を代表しまして、教育委員会に後日提出をさせて頂くという事でご一任頂けますでしょうか。

【委員】

お願いいたします。

【会長】

ありがとうございます。では改めまして、委員皆様のご協力を持ちまして、検討会議にあたるこの検討委員会が円滑に進みましたことに、お礼を申し上げて終わりにしたいというように思います。それでは、以上をもちまして、日野市立学校適正規模適正配置等検討委員会を閉会したいと思います。事務局から何かありましたら。

【事務局】

事務局です。7月から5回にわたりまして検討委員会を開かせていただきました。本日もそうですけれども、夜遅くまで皆様の貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

事務連絡ということでございます。まだ微調整をさせていただかなければいけないというところがございます。皆様からいただいたものをまとめさせて頂いて、会長にご承認いただいたものを、最後に皆様にまた見ていただいて、確定をさせていただくという流れでお願いしたいというように考えてございます。それから、先ほど会長からありました教育委員会への答申については、後日ということをお願いしたいというように存じます。

また、この答申についてでございますが、後日、教育委員会の定例会の方に報告をされまして、その後、答申を踏まえて、教育委員会基本方針というものとその後の計画案というものを策定する予定となっております。今回の答申におきましては、今後の幼児教育公立幼稚

園のあり方について、別途会議体を設けて検討ということでご意見をいただいております。ここにつきましては、また改めてスケジュールを精査致しまして、実施を検討してまいりたいというふうに考えてございます。最後に、事務局代表よりご挨拶をさせていただきます。

【事務局】

皆さん、今日も遅くまで本当に深く議論をいただいてありがとうございました。7月の第一回から本日の会、ご審議についてのお礼を申し上げます。日野市の幼児教育のあり方と、公立幼稚園の適正配置と言う事について、皆様のそれぞれの御見識やご経験から幅広く御議論いただき、その貴重な答申として今日まとめをいただきました。

今日以降の動きについては、先ほどご説明した通りとなりますが、皆さまからいただきました答申やご意見をもとに1つ1つ丁寧に進めていきたいと思っております。最後に事務局として至らない点などもあったかと思っております。今後とも宜しく願いいたします。それでは、どうもありがとうございました。